

団体名	三重県教育委員会
-----	----------

【事業概要】

1. 事業実施前の現状と課題

- 特別支援学校におけるセンター的機能としての小中学校等への支援は、特別支援学校の教育部門に対応した形で行われている。特に、知的障がいと肢体不自由の教育部門を設置した特別支援学校においては、支援地域が重複する場合があります。効率的な支援に向けた連携及び調整が必要である。
- 医療等専門機関の理学療法士（PT）・作業療法士（OT）等の学校訪問による療育相談等が実施されており、この取組と特別支援学校のセンター的機能による支援相談等との連携を図ることで、より充実した支援体制の構築が期待される。
- 特別支援学校で取組が進められているキャリア教育、ICT 機器を活用した指導や支援等について、特別支援学校間での情報共有を図るとともに、センター的機能による小中学校等への支援での活用が求められている。

2. 事業を通じて得られた成果と課題

- 特別支援学級担当者会を開催し、実態やニーズの把握を行うとともに、特別支援学校間の連絡会議により情報共有を行うことで、計画的な支援を実施することができた。支援の場面では、肢体不自由と知的障がいの両方ある場合もあり、有効な支援方法について検討が必要である。また、視覚障がいや聴覚障がいの支援について、より専門的な支援を行うために盲学校及び聾学校との情報共有や連携に課題がある。
- 医療等専門機関による PT・OT 等と特別支援学校が協働して小中学校等の支援を実施することができた。PT・OT 等と特別支援学校のコーディネーター等による支援を同時に行うことで、小中学校等の担当教員は、児童生徒等の実態把握から姿勢等の支援、学習支援と一連の具体的な支援方法の理解を深め、指導について見通しをもつことができた。しかし、北勢地域における医療等専門機関の PT・OT 等専門職の確保が困難であることと、連携や調整について課題がある。
- 特別支援学級では、発達や課題が異なる児童生徒が在籍しているため、指導方法や授業の工夫が必要である。センター的機能による支援で、障がいの特性や学習内容に応じた ICT 機器等を提示し活用することで合理的配慮が提供され、集団での学習において同じ課題に取り組むことができる、学習に集中できる時間が長くなるなどの成果につながった。センター的機能による支援により、特別支援学級教員の児童生徒への支援や指導方法の充実を図ることができたが、ICT 機器を障がいの特性や学習課題に応じて適切に使用すること、小中学校で機器等の整備を進めることに課題がある。

3. 解決策（次年度の取組等）

- 障がい種別による支援に加え、教育的ニーズによる支援の視点で、特別支援学校間の連携をとり、支援を進めていく。また、特別支援学校のコーディネーター連絡会等により、特別支援学校間で地域支援等の状況や計画について情報共有を図っていく。

- 今回実施した医療等専門機関の PT・OT 等を中心に、継続して連携した支援を実施することで、地域の外部専門家を活用した支援体制の構築を目指す。
- 小中学校等の支援では、コミュニケーション支援や学習支援等のニーズが高い。特に知的障がい、発達障がいを中心とした ICT 機器等の活用について、特別支援学校間での情報共有や研修を進めることで、特別支援学校のセンター的機能として地域支援への活用を目指す。

※三重県では法令・医療用語等以外は「障がい」の表記を使用している。

【推進地域及び指定校一覧】

推進地域	指定校	
三重県北勢地域	1	三重県立特別支援学校北勢きらら学園
	2	三重県立くわな特別支援学校